

# LRP

## R E P O R T



10th  
anniversary

LET'S READ PROJECT  
REPORT

2018

## はじめに

Let's Read Project(以下LRP)は本を読む楽しさ、そしてそれを他人と共有することを目的として2008年に発足された団体である。

発足して10年という一つの節目となる今年度も様々な活動で読書の楽しさを発信してきた。定期的に行われる企画本棚、夏に行われる図書館見学ツアー、大学祭でのミニビブリオバトル、冬に行われる選書ツアーなどである。

企画本棚はテーマを決め、それに沿った本を展示するのだが、毎回多くのメンバーのおかげで同じテーマでも物語、図鑑など様々なジャンルの本が並び、そこにメンバーの書いたポップも加わり、彩り豊かな本棚が完成する。

見学ツアーは、今年は旧江戸川乱歩邸と立教大学池袋図書館を訪問した。乱歩邸では乱歩に関する貴重な資料を拝見し、そして立教大学池袋図書館では最新の設備から図書館の裏側まで見学し、図書館に関する知識を深めることができた。

大学祭でのミニビブリオバトルでは、今回は“世界の名作”と“絵本”をテーマに行った。共に一般の方にも興味をもってもらいやすいテーマで多くの方に来ていただけた。

選書ツアーは紀伊國屋書店新宿本店にて、新年度企画本棚に向けてメンバーがそれぞれ多種多様な本を選書した。この選書ツアーはLRP一年の活動の集大成のため、全員張り切って選ぶのだが、毎回「こんな本があるのか!」と驚かされる。こうして出来上がる本棚はいつもの企画本棚以上に華やかで毎年多くの新入生の目を引くものとなっている。

読書は楽しいものだが、その楽しさを他人と共有できれば楽しさは倍となる。そしてそこから新たな本と出会い、今度はまた別の他人と楽しさを共有することができる。本にはこのように人と人を繋げる力もあると思う。

さて、長くなってしまったがこのレポートは私たちの一年間の活動報告である。中にはLRPメンバーおすすめの本を紹介するコーナーもある。そこから本を読む楽しさ、そしてそれを他人と共有することの嬉しさを感じていただければLRPメンバー一同この上ない幸いである。

総合文化学科3年 満足鮫

## CONTENTS

はじめに	2
『LRPメンバーがこの10年に選んだ本』	4
LRP2018年度活動報告	6
『新入生歓迎本棚2018』公開	7
『新入生歓迎本棚2018』公開記念プレゼンテーション開催	8
『水本棚』公開	9
旧江戸川乱歩邸・立教大学図書館見学ツアー2018、メンバーの感想	10
『LRPイベント「ミニビブリオバトル」in 和光大学祭』開催	12
『LRP10周年本棚』公開、『想像の源本棚』公開	14
第12回選書ツアー	15
PICK UP BOOK	16
LRP Profile	18

表紙：選書ツアー(2019年2月)にて  
《紀伊國屋書店新宿本店》

# メンバーがこの10年に選んだ本

2008年のLRP結成から10年。活動の集大成として年度ごとに行ってきた選書ツアーを振り返り、当時のメンバーが選書を行った中から、現在のメンバーがおすすめの本を選びました。


LRPの歴史とともにご覧ください。

## ※LRPの選書ツアー

すべてのジャンルから幅広く選書するよう、担当分野を決め選書を行います。選書後に、なぜ選んだのか熱くプレゼンを行い、みんなの合意の下に決定しています。

### 2008

**書名:** 妖怪アパートの幽雅な日常 (1)  
**著者:** 香月日輪著  
**出版社:** 講談社文庫



**エピソード:** 一言で表すなら「昔懐かしい本」だ。十三歳で両親を喪った主人公が、孤独感を押し殺しながら高校生になり、入学を機に入居したアパートは妖怪の巣窟だった。しかし妖怪たちは人間にとっても友好的で、彼らとの交流を通じて、主人公は抱えてきた孤独を癒していくと同時に対面する困難に立ち向かうのである。見るものがすべて輝かしく、不思議で、どこか怖かった子供の頃に反れるような作品である。(心理教育学科4年 もちづき)

### 2012

**書名:** 青空の卵  
**著者:** 坂木司著  
**出版社:** 創元推理文庫



**エピソード:** 『青空の卵』は坂木司の処女作であり、人が知らないミステリーの名作である。この作品はすべてが魅力的で、たとえ犯人であっても嫌になれない登場人物や、探偵役の鳥井の推理力、主人公・坂木と鳥井の高校時代から続く友情はもちろんのこと、一番は作品から感じる心温まる優しい雰囲気だろう。この作品は全三部作であり気に入ったのであれば他の二作も読むことをお勧めする。癒される感動のミステリーにぜひ触れてみてほしい。(総合文化学科4年 とい)

●2014  
 新入生歓迎本棚の  
 プレゼンスタート




●2015  
 国際子ども図書館を  
 見学

●2016  
 米沢嘉博記念図書館と  
 明治大学図書館を見学

### 2017

**書名:** 数のほなし  
 :ゼロから∞まで  
**著者:** パニー・クラムパッカー著  
 ; 齊藤隆央, 寺町朋子訳  
**出版社:** 東洋書林



**エピソード:** かつて高校などで「算数」や「数学」の授業とさよならして「数字」そのものも好きでなくなってしまった人は多いと思います。これはそんな方におすすめしたい本です。学校でさよならしても、勉強や授業以外の様々な場所で私たちは「数字」に触れており、現代社会で生きるためには必要不可欠です。この本は堅苦しくない親しい日常としての「数字」に出合わせてくれます。かつてさよならしたものに再会したら、今度は違う姿が見えるかもしれません。(心理教育学科4年 納戸色)

## 2008

●2009  
 夏の見学ツアースタート。  
 初回は国立国会図書館へ


●LRP 結成  
 12名の学生が集まる  
 トークライブ  
 「きっかけは一冊の本」開催



●2010  
 図書館総合展の  
 ポスターセッションに  
 参加

### 2010

**書名:** 世界サメ図鑑  
**著者:** スティーブ・パーカー著;  
 櫻井英里子翻訳  
**出版社:** ネコ・パブリッシング



**エピソード:** この本の内容をざっくり言うと、タイトル通りに「世界のサメ」が海にいる写真と詳しい説明がセットになり、終わりの頁までずっと続くという本である。海の中は青くて神秘的で、そこにいるサメは動く宝石のように美しく感じられる。サメの解像度の綺麗さと海的神秘さを感じられる一冊となっており、海やサメが好きだと言う人には是非ともお勧めしたい一冊だ。興味の無い人でも引き込まれるような写真が多数掲載されているので、一度読めば海とサメに深い関心を持つことは間違いなしだ。(経済学科1年 ノリソバ)


●2011  
 図書・情報館内に  
 LRP ルーム開設

●2012  
 ビブリオバトル始動

●2013  
 代官山蔦屋書店見学で  
 和光大学卒業生に案内してもらう

### 2014

**書名:** もしドラえものの「ひみつの道具」が実現したら  
 : タケコプターで読み解く経済入門  
**著者:** 藤野英人著  
**出版社:** 阪急コミュニケーションズ



**エピソード:** あんなこといいな、できたらいいな。もし本当にできたら……? ドラえものの秘密道具。実現したら社会はどうなるのか? この事を真面目に考察する本です。タケコプターが実現すると繊維業界や保険、警備にビジネスチャンスが!? ほん訳こんにやくが実現すると日本男子は肉食化を迫られる!? どこでもドアが実現すると環境問題が解決しフェイスブックが上場!? ドラえもんを通して経済と世の中の“ひみつ”を解き明かす経済入門書です。(総合文化学科2年 山名案山子)

●「和光大生の大学生活を彩る本」  
 をテーマに選書



## 2018 2019



# LRP 2018年度活動報告



4月27日(金)

## 『新入生歓迎本棚2018』公開

春休みに行った「選書ツアー」でLRP学生メンバーが新入生にオススメの本を選びました。おすすめポイントなどを記したPOPを作成し、本棚の展示を行いました。学生ならではの視点で、様々な分野の本を揃えました。

### LET'S READ PROJECT 『新入生歓迎本棚2018』ブックリスト

タイトル／著者ほか	出版社
1 世界植物神話 / 篠田知和基著	八坂書房
2 怖い女：怪談、ホラー、都市伝説の女の神話学 / 沖田瑞穂著	原書房
3 天皇のダイニングホール：知られざる明治天皇の宮廷外交 / 山崎鯛介, メアリー・レッドファーン, 今泉宜子著	思文閣出版
4 モダンガールのス・メ / 浅井カヨ著	原書房
5 ワイツ論の政治学 / 内藤篤著	森話社
6 世界のお墓文化紀行：不思議な墓地・美しい霊園をめぐる、さまざまな民族の死生観をひも解く / 長江曜子監修	誠堂新光社
7 星座の神話と伝説がわかる本 / 宇宙科学研究倶楽部編	学研プラス
8 骨格百科：スケルトン：その凄い形と機能 / アンドリュー・カーク著；和田侑子訳	グラフィック社
9 数覚とは何か？：心が数を創り、操る仕組み / スタニスラス・ドゥアンヌ著；長谷川眞理子, 小林哲生訳	早川書房
10 Chocolate：チョコレートの歴史、カカオ豆の種類、味わい方とそのレシピ：チョコレートを愛するすべての人へ / ドム・ラムジー著；夏目大 [ほか] 訳	東京書籍
11 兵士を救え!：[〇珍] 軍事研究 / メアリー・ローチ著；村井理子訳	亜紀書房

No.  
**1**

和光大学図書・情報館  
新入生歓迎本棚～2018～  
場所：図書・情報館3F LRP本棚  
日時：2018年4月27日～

新入生におすすめする本を揃えました。  
春は出会いの季節。  
一冊の本との出会いがこれからの大学生活を変えるのかも……？  
新たな世界に、おいでませ。

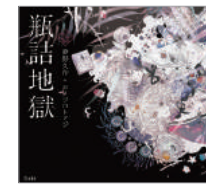
～予告～  
LRPメンバーが選書ツアーで選んだ本を紹介する「プレゼンテーション」を行います。  
日時：5月7日(月) 8日(火) 9日(水)  
昼休み (12:15-12:45)  
場所：図書・情報館3F フリー閲覧スペース  
興味のある方は是非お立ち寄りください。



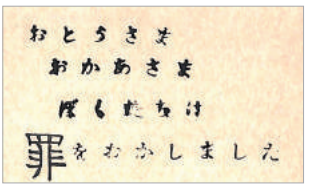
『亜愛一郎の狼』泡坂妻夫著 創元推理文庫



『名セリフ!』鴻上尚史著 ちくま文庫



『瓶詰地獄』夢野久作著、ホノジロトヲジ絵 立東舎



タイトル／著者ほか	出版社
12 図解土壌の基礎知識 / 藤原俊六郎著	農山漁村文化協会
13 岡本太郎の沖縄 / 岡本太郎撮影；岡本敏子企画；平野暁臣プロデュース	小学館クリエイティブ
14 名女優：写真家・早田雄二の撮った「永遠に輝く一瞬」(別冊太陽)	平凡社
15 よるの美容院 / 市川朔久子著	講談社
16 うさぎのくれたパレエージュズ / 安房直子文；南塚直子絵 (えほん・こどもとともに)	小峰書店
17 押絵と旅する男 / 江戸川乱歩著 (乙女の本棚)	立東舎
18 猫たちの色メガネ / 浅生鴨著	KADOKAWA
19 屍人荘の殺人 / 今村昌弘著	東京創元社
20 かがみの孤城 / 辻村深月著	ポプラ社
21 ツナグ / 辻村深月著	新潮社
22 瓶詰地獄 / 夢野久作著；ホノジロトヲジ絵 (乙女の本棚)	立東舎
23 ザッヘル＝マゾッホの世界 / 種村季弘著 (平凡社ライブラリー；518)	平凡社
24 知れば知るほど残酷な世界史：拷問、処刑、殺人…禁断のファイル / 桐生操著 (祥伝社黄金文庫)	祥伝社
25 名セリフ! / 鴻上尚史著 (ちくま文庫；[こ-38-1])	筑摩書房
26 獄門島 / 横溝正史 [著] (角川文庫・金田一耕助ファイル；3)	角川書店
27 双頭の悪魔 / 有栖川有栖著 (創元推理文庫)	東京創元社
28 亜愛一郎の狼 / 泡坂妻夫著 (創元推理文庫；[Mあ1-4])	東京創元社
29 娼年 / 石田衣良著 (集英社文庫)	集英社
30 ジョーカー・ゲーム / 柳広司 [著] (角川文庫；16890、や39-6)	角川書店
31 そして誰もいなくなった / アガサ・クリスティ著；青木久恵訳 (ハヤカワ文庫；6789、クリスティ文庫；80)	早川書房





No.  
**2**

5月7日(月)～9日(水)

### 『新入生歓迎本棚2018』公開記念プレゼンテーション開催

春休みの選書ツアーに参加した学生メンバーが、選んだ本の中から「おすすめの1冊」のプレゼンテーションを行いました。  
3日間にわたって、合計10人のメンバーが、図書・情報館3階LRP企画本棚前のフリー閲覧スペースにて、「この本のここが魅力です!」、「和光大学の授業に関連があるので、新入生におすすめします!」など、本にまつわる話を披露しました。



No.  
**3**

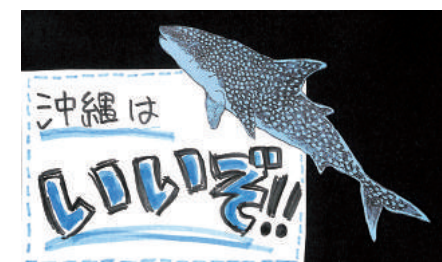
7月6日(金)

### 『水本棚』公開

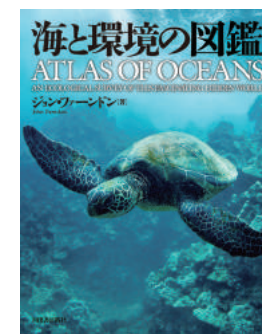
海、川、水遊び、水球、水泳、雨、水族館……  
水にまつわる本をメンバーが選びました。



『ちゅら海からの風』井上慎也著、高松明日香著 求竜堂



『水と温泉の文化史』アルヴ・リトル・クルーティエ著、武者圭子訳 三省堂



『世界の水辺の町』ピービーエス通信社写真、若菜晃子文  
パイインターナショナル (左)

『海と環境の図鑑』ジョン・ファーンドン著、武舎広幸、武舎るみ訳  
河出書房新社 (中)

(画像: 和光大学図書・情報館所蔵資料)  
『海底二万里』ジュール・ヴェルヌ著、江口清訳  
集英社文庫 (右)



9月5日(水)

## 旧江戸川乱歩邸・立教大学図書館見学ツアー 2018

2018年度の夏期見学ツアーは、9月5日(水)に旧江戸川乱歩邸および立教大学図書館に行ってきました。

学生メンバー11名、図書・情報館スタッフ2名が参加しました。

旧江戸川乱歩邸の見学は、かねてからLRPメンバーが熱望していたこともあり、乱歩の多数の蔵書やこだわりの自著箱など、母屋から土蔵までみな食い入るように見学しました。案内をしてくださったのが、同じ学生(乱歩邸アルバイトスタッフの立教大学の学生さん)ということもあり、いろいろな質問やこぼれ話が飛び出す、和気あいあいとした見学となりました。

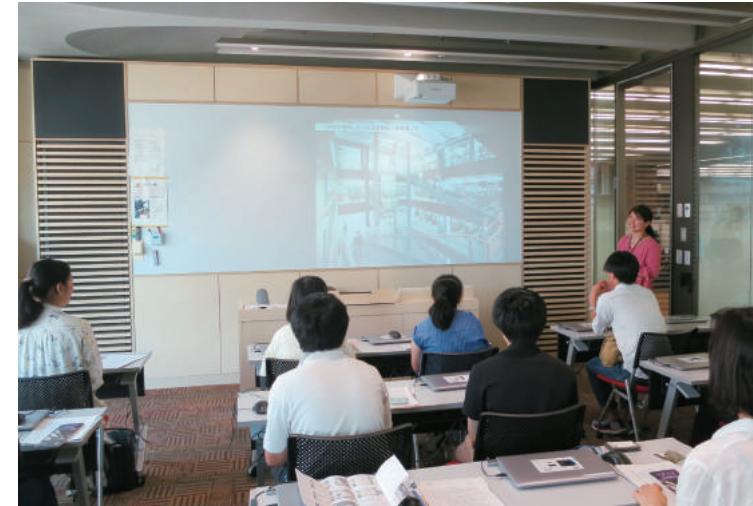
立教大学図書館では、職員の方から概要をうかがった後、

2012年に全面開館された重厚感あふれる図書館を見学させていただきました。

普段は目にする事のない自動書庫や貴重書、また、広く充実した蔵書や閲覧スペースに感嘆しきりでした。実際に図書館で勉強している学生の姿に、LRPメンバーも良い刺激を存分に受けたようでした。

今回の見学ツアーでは終始興奮状態でしたが、見学先の方々の

懇切丁寧なご対応により、とても貴重な機会をいただくことができました。



### メンバーの感想

旧江戸川乱歩邸は以前SNSで見て気になっていたのですが、今回見学でき、とても楽しかったです。土蔵は普段公開していないそうで、とても貴重な体験ができワクワクしました。古い木材と本の匂い、空間そのものが最高でした。

(芸術学科1年 ネゴ)

切望していた江戸川乱歩邸に、念願叶って行くことができた。乱歩の猟奇的なことに興味がある一面や、その反面、几帳面な顔や友人らの作品を気にしているところを垣間見ることができた。まさに作家の顔が見える場所だった。

(芸術学科3年 都)

江戸川乱歩邸では、普段見ることのできない場所を見学させていただき、とても楽しかったです。乱歩の性格などを肌で感じる事ができてよかったです。図書館も和光と色々違い、新鮮でした。

(現代社会学科1年 shuri)

以前から乱歩が好きだったので今回の見学は貴重な体験でした。自分の作品を全て保存しているのには驚かされました。そして立教大学の図書館の利用者を考えた作りは素晴らしいです。

(総合文化学科3年 満足餃)

江戸川乱歩の書物は蔵の中に収められている。床から天井にまで届く大きな本棚が複数、道を作るように並べられており、大量の本はそこに敷き詰められている。将来、私もあのような自分ひとりの空間が欲しいものだ。

(総合文化学科2年 水仙)

ほぼ門外不出の江戸川乱歩に関する資料や、大学図書館所蔵の資料を見せていただきました。特に前者はスタッフの大学生と大学院生の方々ともお話できて、とても充実した見学ツアーでした。

(心理教育学科4年 もちづき)

館内のディスプレイとして、かつて蔵書印として利用していたエンボッサーを置いている所が印象的でした。昔からの物を今に引き継いでいるのを形で見ていると感じました。貴重な機会をありがとうございました。

(総合文化学科2年 ぼと)

江戸川乱歩の作品は読んだことも読む予定もなかったのですが、几帳面に整理された書庫や家のおしゃれな内装を見学して、江戸川乱歩について興味がわきました。作品も読んでみようと思います。

(心理教育学科4年 納戸色)

立教大学の旧江戸川乱歩邸で一番印象に残っているのは土蔵の見学だ。膨大な数の本が所蔵されており、さながら小さな図書館だった。また、どこに何があるのかきちんと管理されており、乱歩の几帳面な人柄が窺えた。

(総合文化学科2年 一条公三郎)

(総合文化学科4年 an)



11月3(土)・4日(日)

## LRP イベント「ミニビブリオバトル」 in 和光大学祭 開催

11月3日(土)、4日(日)の大学祭に合わせて、  
LRP メンバー企画のイベントを  
図書・情報館 3F フリー閲覧スペースにて開催しました。



**ミニビブリオバトル**  
テーマは「世界の名作」と「絵本」。世間一般に広く知られている「名作」、それぞれ思い入れのある「絵本」についてメンバーが熱く語り、チャンプ本を決めました。2日間で計3回開催し、多くの観覧の方に来ていただきました。

**フリーペーパー**  
昨年度に引き続き、フリーペーパー（わたしの選んだおすすめ本／LRPの紹介）を作成し、来場された方に配布しました。メンバーが描いたかわいいイラストの表紙が大人気でした。



この他、会場のすぐ横には『LRP10周年本棚』を展示しました。





11月1日(木)

## 『LRP10周年本棚』公開

LRP10周年を記念して、過去に先輩メンバーが選んだ本の中から、現メンバー厳選による本を展示しました。

LRPにとって思い出深い本たちが再登場！



No.

6

No.

8



2月7日(木)

## 第12回 選書ツアー

新年度4月からの本棚作りに向けて、選書ツアーに行きました。場所は毎年お世話になっている紀伊國屋書店新宿本店です。参加メンバーは13名。事前に図書・情報館職員からレクチャーを受けるなど、どんな本を和光大学の蔵書として選んだら良いのかそれぞれ準備をして臨みました。ツアー当日は、店内で約1時間の選書後、紀伊國屋書店のイベントスペースをお借りして各自プレゼンを行いました。その後、メンバー同士で「大学図書館に置く本としてふさわしいか」、「今回のコンセプト『和光大生の大学生活を彩る本』に合っているか」等々の白熱した議論が繰り広げられました。「図書館」と「学生」双方の視点から、本好きメンバーたちが魅力的な本を選び抜いてくれました。



No.

7

1月9日(水)

## 『想像の源本棚』公開

2018年度最後の企画本棚は『想像の源本棚』です。小説、マンガ、映画、舞台……様々な創作のきっかけや糧になる本を集めました。「どんな世界が広がりそうか?」、「キャラクター設定時のヒントになる!」などメンバー各々の視点で書いた渾身のPOPも本棚を彩りました。



### メンバーの感想

- |  |   |
|--|---|
| 最後の選書ツアーも楽しく終わられました。<br>(心理教育学科4年 もちづき)                | メンバーの意見により、選ぶ本が決まっていくのはおもしろいと感じました。<br>(総合文化学科2年 ぼと)  |
| 最後のツアーも数学推しができて楽しかったです!ありがとうございます!<br>(心理教育学科4年 納戸色)   | 時間があっという間に過ぎたが、良書にめぐり合えたのでよかったです。<br>(総合文化学科2年 一条公三郎) |
| 他人のプレゼンを聞くことでいろんな本と出合えるのが楽しいです。<br>(総合文化学科4年 とい)       | 慎重に選書した。学生の皆さんの役に立つとうれしい。<br>(総合文化学科2年 山名案山子)         |
| 4年生として最後の選書ツアーに参加することができてよかったです。<br>(総合文化学科4年 ムニ)      | こんなに大きな書店は初めてだったので、楽しかったです。<br>(現代社会学科1年 shuri)       |
| 今回も白熱したプレゼンとなり最高でした。良い思い出になりました!!<br>(総合文化学科4年 前途)     | 初めての参加でしたが、大学生活を考えながら選書ができました。<br>(総合文化学科1年 kちゃん)     |
| 普段はあまり選ばない本とふれあえて新鮮でした。<br>(総合文化学科3年 満足鮫)              | 選書後のプレゼンが難しかったです。来年がんばります!<br>(経済学科1年 ノリソバ)           |
| プレゼンでは少々無茶を言って選んでもらったが、本当にありがたい。読んでください。<br>(芸術学科3年 都) |   |



# PICK UP BOOK

LRP メンバーおすすめの本をご紹介します。  
渾身のおすすめコメントと併せて、お楽しみください。



## 舟を編む

三浦しをん著／光文社／2011

「本」という媒体が本当に好きになる物語。主役は辞書と、それに携わる人々。辞書「大渡海」を完成させるために日々単語を収集し、辞書に対して本気で向かい合う編集部。言葉の本質に迫る文章を織り交ぜながらも、辞書の実情や「大渡海」を巡る人々の日常が描かれている。「本」が愛おしくなる一冊。

(心理教育学科4年 もちづき)



## 数字が明かす小説の秘密：スティーヴン・キング、J・K・ローリングからナボコフまで

ベン・ブラッド著、坪野圭介訳／DU BOOKS／2018

何度も読み返す本、好きな作家、ずっと大好きな物語があって、1日中それらについて考えていて止まらない。そんな方に「考え事材料」としておすすめの本です。いままで何気なく読んでいた作品達の共通点や法則のヒントがたくさん詰まっています。心で感じる世界に、データで切り込んでみるのも面白いかもしれません。

(心理教育学科4年 納戸色)



## 鳥山石燕画図百鬼夜行全画集

鳥山石燕著／角川ソフィア文庫／2005

江戸時代の絵師である鳥山石燕が描いた妖怪たちのデザインは『ゲゲゲの鬼太郎』や『妖怪ウォッチ』など現代の文化に受け継がれています。きっと一度はどこかで見たことのある姿ばかりです。怖いながらも可愛い妖怪画の世界を覗いてみませんか？

(総合文化学科4年 とい)



## 寺山修司名言集：身捨つるほどの祖国はありや

寺山修司著／パルコエンタテインメント事業局／2003

寺山修司を知る第一歩として、寺山修司の言葉をさらに知りたい人の手掛かりとして推したい本です。彼の書いた文章から印象的な言葉を抜き出してギュギュっとまとめてあるので、ここからたくさん本に出会うきっかけにしてください。パラパラ開いた適当な1ページが、もしかするとあなたの人生に響く一言になるかもしれない。そんな衝撃をもたらす一冊です。

(総合文化学科4年 前途)



## ぼくの手はきみのために

市川拓司著／角川書店／2010

この本は、表題作ほか全三篇を通して、登場人物たちが「世界にたった一つだけの組み合わせ」に巡り会い、穏やかに紡ぎだす日常を描いた短編集。不思議な発作を持つ女の子と、それを唯一治めることが出来る男の子。7つ年下の男性と暮らす女性。血のつながらない二人の子供を育てる男性。それぞれが育む愛と絆がどうなるのか。その目でぜひ、確かめていただきたい。

(芸術学科4年 苜)



## 旅をする木

星野道夫著／文春文庫／1999

この本はアラスカで活躍した写真家、星野道夫によるエッセイ集です。彼のアラスカでの生活や体験が落ち着いた美しい言葉で綴られています。アラスカの雄大な自然、そしてそこに暮らす人々の魅力が一つ一つの文章に溢れていて、読む人をどんどんアラスカへと引っ張っていきます。この「旅をする木」を読んだらきっとあなたもアラスカへと行きたくなりますよ。

(総合文化学科3年 満足鮫)



## 武蔵野

国木田独歩著／角川文庫／1956

ジャーナリストとして全国を駆け巡った国木田が愛したのは、武蔵野の自然だった。そしてそれは、和光大学のある鶴川も武蔵野に含まれる。毎日ただ通り過ぎているだけの緑でも、数々の文化人が愛した自然だと思えば、何か違うものに見えてくるかもしれない。

(芸術学科3年 都)

©2016 朝霧カフカ・春河35/KADOKAWA/文豪ストレイドッグス製作委員会



## 真贋

吉本隆明著／講談社インターナショナル／2007

「戦後最大の思想家」と呼ばれる吉本隆明の著作です。彼にはいくつもの著作がありますが、これは彼の思想を知るうえでの入門書と言っていいでしょう。彼が日常で気になったこと、普段から考えていること、過去の体験をもとに問い、戦争問題、人生論について意見を述べています。基本的に素人目線のため専門知識がなくても読むことができ、素人だからこそ読者に新しい視点を持たせてくれる作品だと私は考えています。彼個人の考えに理解できない箇所、賛成できない箇所もあるとは思いますが、ひとつ読んでみてほしい作品です。

(総合文化学科2年 水仙)



## コーヒーと随筆

庄野雄治編／mille books／2017

随筆、と聞くと少し堅いイメージがありますよね。ですが、その中身は何年たっても色あせることのない作品ばかりだと発見できるのが、この一冊です。作品の多くは近代文学の作者たちが書いたものですが、読むごとに、時代が変わっても作者たちは私たちと同じようなことを考えているというのを、感じる事が出来るのではないのでしょうか。題名にある通り、コーヒーを片手に読むのもよし。お好きな飲み物と一緒にゆっくりとお楽しみください。

(総合文化学科2年 ぼてと)



## 東京島

桐野夏生著／新潮社／2008

世界一周旅行を満喫するため、クルーザーで出かけた1組の夫婦。だが途中嵐に遭い、無人島に漂流してしまった。やがて夫は死亡し、新たに23人の男と11人の中国人の男が同島に漂流してきた。かくして、1人の女と34人の男の奇妙な共同生活が始まった……!ちなみにこの物語はフィクションです、衝撃の実話(アナタハン島の女王事件)を基にした。

(総合文化学科2年 一条公三郎)



## 豹頭の仮面

栗本薫著／ハヤカワ文庫／1983

中原の由緒正しきパロ王国は新興国のゴーラによって一晩で滅ぼされる。だが、双子の王子レムスと王女リンダはいかなる手段からかパロ王国から遠く離れた辺境の森ルードに現れる。しかし追手の追及は厳しくあわや窮地に陥ったその時、二人を助けたのはヒョウの頭を持つ怪人だった。総数百巻以上に及ぶ大巨編ヒロイックサーガ。大学四年間をかけて読むのもいいかもしれません。

(総合文化学科2年 山名案山子)



## 赤い瞳は知っている

神永学著／角川文庫／2008

霊を見ることができるが救うことは出来ない八雲と、過去に姉を事故で亡くした春香が挑む悲しく、切ない事件の数々。この本の魅力は幽霊などの不思議な存在を通して、八雲の葛藤や春香の苦しみをどう乗り越えるのか、死んでしまった人が「今」を生きる人に何を願っているのかが繊細に書かれていることです。ミステリーだけでも、犯人を捕まえておしまいじゃないのが「心霊探偵八雲」の面白さです。

(現代社会学科1年 shuri)



## 声の文化と文字の文化

W.J. Ong 著、榎井直文、林正寛、糟谷啓介訳／藤原書店／1991

この本は主に、声と文字の文化について書かれています。声は私たち人間に欠かせないもの、また文字は日頃私たちが書いたり読んだりするためには欠かせません。また、言葉は私たち人間が生きていく上でとても大切なものです。声の文化と文字の文化の相互関係がわかる本です。

(総合文化学科1年 kちゃん)



## 魔女狩り

ジャン＝ミシェル・サルマン著；富樫環子訳／創元社／1991

魔女狩りの始まりや広がり、地域によっての差、どういう人がどうやって陥れられたのかなどが、画像多めのほぼフルカラーで読みやすく紹介されています。本も小さめで厚くなくサクッと読めます。このシリーズはどれも読みやすくおすすめです。

(芸術学科1年 ネボ)



【所属学科】心理教育学科【学年】4年【ペンネーム】もちづき  
 【好きな本or作家】江戸川乱歩、辻村深月、森見登美彦、三上延『ピブリア古書堂の事件手帖』  
 【ひとこと】楽しく生きて還暦過ぎたあたりで逝きたい大阪・京都への移住希望者です。



【所属学科】心理教育学科【学年】4年【ペンネーム】納戸色  
 【好きな本or作家】『感情』から書く脚本術：心を奪って釘づけにする物語の書き方  
 【ひとこと】わがままなので自分で書かないけど書いてる側の視点は欲しい。



【所属学科】総合文化学科【学年】4年【ペンネーム】とい  
 【好きな本or作家】坂木司  
 【ひとこと】将来の夢は妖怪です。



【所属学科】総合文化学科【学年】4年【ペンネーム】前途  
 【好きな本or作家】時雨沢恵一、はやみねかおる、西尾維新  
 【ひとこと】<急募>猫集会の会員になる方法



【所属学科】総合文化学科【学年】3年【ペンネーム】満足鮫  
 【好きな本or作家】アガサ・クリスティ  
 【ひとこと】ミステリー好きが高じてワトソン役について卒論を書くことになりました。



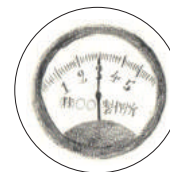
【所属学科】芸術学科【学年】3年【ペンネーム】都  
 【好きな本or作家】中原中也、江戸川乱歩、茅田砂胡、香月日輪等  
 【ひとこと】文学は人生の指針。近代文学中心になんでも食う。中原中也を溺愛している。



【所属学科】総合文化学科【学年】2年【ペンネーム】水仙  
 【好きな本or作家】ミシェル・ウエルベック『服従』、フェルナンド・ペソア『不穏の書、断章』など  
 【ひとこと】海外の小説ばかり読んでいます。最近はラテンアメリカ文学を読もうと思っています。



【所属学科】総合文化学科【学年】2年【ペンネーム】ぼてと  
 【好きな本or作家】辻村深月  
 【ひとこと】短編、児童文学をよく読みます。



【所属学科】総合文化学科【学年】2年【ペンネーム】一条公三郎  
 【好きな作家・本】荒俣宏『帝都物語』、尾崎放哉(俳人)『咳をしても一人』  
 【ひとこと】嫌いな肩書は歴史上の偉人です。理由は歴史を作るのは時間と人間だと思うからです。



【所属学科】総合文化学科【学年】2年【ペンネーム】山名案山子  
 【好きな作家・本】赤松中学『緋弾のアリア』  
 【ひとこと】来年度からは三年生になります。LRPを担う主軸の一人として精力的に活動しようと考えています。



【所属学科】現代社会学科【学年】1年【ペンネーム】shuri  
 【好きな本or作家】東直己、江戸川乱歩  
 【ひとこと】本を読んだり、映画を見たりするのが好きです。



【所属学科】総合文化学科【学年】1年【ペンネーム】kちゃん  
 【好きな本or作家】谷川俊太郎  
 【ひとこと】一生懸命頑張ります。お願いします。



【所属学科】芸術学科【学年】1年【ペンネーム】ネゴ  
 【好きな本or作家】蒼月海里『幻想古書店で珈琲を』  
 【ひとこと】好きなことだけやって生きたい。



【所属学科】経済学科【学年】1年【ペンネーム】ノリソバ  
 【好きな本or作家】有川浩  
 【ひとこと】よろしくお願いします。口数が少ないです。



# 10th anniversary



LRPルームは、図書・情報館2Fにあります。

「開室中」であれば、メンバーが中にいます。

気軽に声をかけてください。



LRPレポート2018  
2019年3月20日発行